

こどもの水毒 五苓散が有効

Q 七歳、二女。アレルギー体質で軽度の喘息（ぜんそく）とアトピー性皮膚炎があります。かせ

の時、発熱とともにひどくせき込み、しばしば嘔吐（おうと）をします。葛根湯（かつこんとう）や麻杏甘石湯（まきようかんせきとう）など種々の漢方薬を試しましたが、服用すると吐いてしまいます。

A 漢方薬は体質や症状・兆候など個別の事情を総合的に判断して処方を決める。質問者の場合喘息傾向があるため平素から水分を十分とるように指導されているという。かせをひくとひどくのどが渇き、ジュースなどを飲ませると吐いてしまい、水のような下痢にもなる。顔がなんとなくむくんだ感じになり、極端に小水の回

数が減る。水疱（すいほう）性のじんましんもやすいという。

漢方医学では体内の水分の分布異常を「水毒（すいどく）」と呼んでいる。こどもは感冒、喘息様気管支炎の時、のどの渇き、嘔吐、下痢、むくみ、尿量の減少など「水毒」の所見を示すことが少なくない。

この場合漢方では病名にかかわらず水毒を治す処方をする。その代表的処方が五苓散である。五苓散を温かい白湯か重湯で飲ませると不思議に嘔吐やせき・発熱・下痢などの症状がおさまる。かせや喘息発作のたびに点滴を受けていたこどもがこの五苓散の服用で点滴しなくてすむようになった、と喜ばれることが少なくない。近年は五苓散の座薬を試みている研究施設もある。